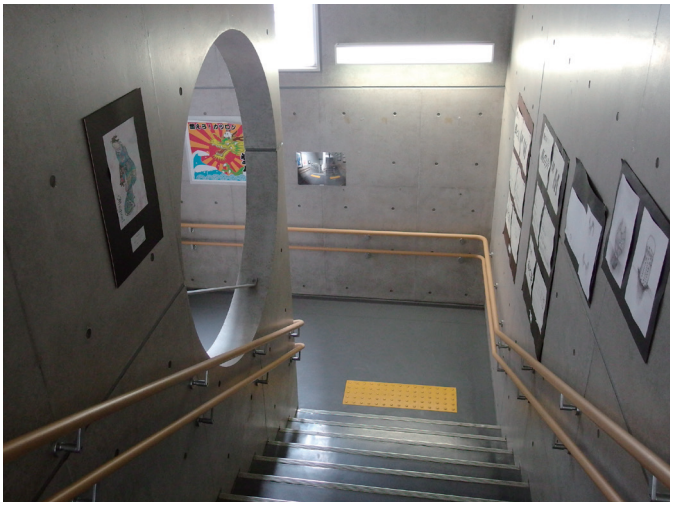
「衝突の危険性が劇的に減りました」

東京都立葛飾ろう学校 衝突防止物語

コミーは東京都立葛飾ろう学校に、校内の衝突防止用ミラーを 22 台寄贈した。設置の約 1 か月後、小宮山（社長）を含む 3 名で学校を訪問。副校長からの第一声は「衝突の危険性が劇的に減りました」だった。寄贈のきっかけは「聴覚に障害を持つ子どもたちは、ミラーを必要としている度合いが高いのではないか」と思ったことだったが、話を聞くうちに気づいたのは、「衝突防止はどんな学校にも共通する問題」ということだった。



ろう学校から「ミラーの貸出制度を利用したい」との連絡。すべてはここから始まった

コミーには「無料貸出」という制度がある。商品を購入する前に、ミラーの映る範囲や像の大きさなどを確認できる制度だ。2014 年 11 月 14 日に、東京都立葛飾ろう学校からこの貸出制度を利用したいという連絡があった。校内の廊下で衝突があり、対策を検討しているとのことだった。

通常、無料貸出の申し込みがあると、まずは現場のことをよく知っている人と電話で話し、最適な商品を選定する。その後、商品を送付し、現場でミラーを当てて確認してもらう。

しかし、ちょうどこの少し前から、コミーでは「ミラーを本当に必要としているのはどんな人だろう？　車いすの方や聴覚に障害を持つ方などは、ミラーを必要とする度合いが高いのではないか？」と考えていた。もっと話を聞いて理解を深めようというのが、会社方針にもなっていた。電話だけでなく、実際に学校の現場を見ながら話ができないだろうか。早速、連絡をとり、担当の朴が訪問することになった。

現場へ行き、衝突の危険がある所を確認

貸出の申し込みから 5 日後、綾瀬駅から歩いて 7 分ほどの所にある葛飾ろう学校を訪ねた。

校内に入って朴が感じたのは、学校とは思えないほど静かだということだ。幼稚部から高等部まで約 200 名の生徒が学んでいるというのに、子どもたちが騒ぐような声は全く聞こえてこない。

しかし静かだからといって、子どもたちがみな大人しいわけではないらしい。好奇心旺盛で活発な子が多いのだ。生活指導部の加藤紀彦先生によると、生徒には走らないよう指導しているのだが、小学部や幼稚部の子どもたちはどうしても走ってしまう。例えば、みんなが楽しみにしている昼食の時間。うれしくて食堂までの廊下を駆けてしまう。曲がり角でぶつかって怪我をしないよう、先生方はかなり気を使っているようだ。

この日は、加藤先生とともに衝突の危険がある場所を見て回りながら、どんなミラーを設置したらいいか確認した。ミラーが必要な場所は 9 か所・18 台。この中には、実際に衝突が起きた場所も含まれる。今回、加藤先生が無料貸出を申し込んだ目的は来年度予算の申請のためで、すぐに決定というわけにはいかないが、直接ミラーを見て確認することができ、参考になったと言ってくれた。

予算の確保は難しいとの話。それならミラーが本当に役立つかどうか知るために、寄贈してみてはどうだろう？

12 月、加藤先生に電話をした。すべての個所にミラーを取付けできる可能性は低く、申請が通ったとしても 1 か所か 2 か所だろうとのことだった。

朴が現場を見に行ったときには、ミラーが効果を発揮できそうな個所がいくつもあった。もし予算が下りなかった場合、無償でミラーを提供したらどうだろう。その代わり、使った感想や本当に役に立ったかを聞かせてもらえないだろうか。特に 2011 年に発売した「FF ミラー通路」は、ユーザーからの声が少ない。子どもたちの目線に合わせて設置できるミラーなのだが、学校で活用している例はあまりないのだ。コミーの方針は「最終ユーザーの役に立っているか？　役に立たない商品は売るな」である。葛飾ろう学校で使ってもらい、職員の方や生徒たちに本当に役立つのか、ぜひ教えてほしい。いずれにせよ予算の結果が出るのは翌年の 3 月。3 月まで待つことになった。

子どもたちはミラーに興味津々！　「凸面じゃないの？」など質問攻めに

2015 年 3 月、再び加藤先生に連絡してみた。残念ながら予算は通らなかったとのこと。そこで、考えていたミラーの寄贈のことを提案してみた。学校内で検討してくれ、5 月にこの提案を受け入れ

私たちは売上げの拡大よりも " 出会いの喜び "" 創造の喜び "" 信頼の喜び " を味わえる仕事を大切にしていきます。

てくれることが決まった。

6月4日、ミラーの設置個所を再確認するため、朴が葛飾ろう学校を再訪問した。衝突対策が必要な個所を確認しながら、どこにどのミラーを何台設置するかを加藤先生と検討していった。そして6月24日、ついにミラーを設置することになった。今回は、加藤先生のほかにも副校長の戸石泉先生、今年度から生活指導担当となった牧野敬先生など、6人が対応してくれた。

朴がミラーを設置していたら、子どもたちが声をかけてきた。「どうして付けるの？」「これは平面なの？　凸面じゃないの？」など質問攻め。通常、ミラーを設置しに行っても、「業者さんが何かやっているな」程度にチラッと見るだけで、質問してくる人はほとんどない。しかし葛飾ろう学校の子どもたちは本当に好奇心が旺盛で、みんなが質問してくる。

声をかけてくるのは子どもたちばかりではない。職員の方も「こっちのほうが優先度が高い」「ここにもミラーが必要」と要望を伝えにくる。衝突防止への関心がとても高く、みな子どもたちの安全を真剣に考えていることがよくわかった。

この日は、当初の予定よりも多い20台のミラーを設置した。そのうち数か所には「安全確認」「見ようね」などの注意表示もつけた。

幼稚部のL字路に設置したミラー。子どもの目線に合わせているので、取り付け位置はかなり低い。"見ようね"という注意表示も付けた。

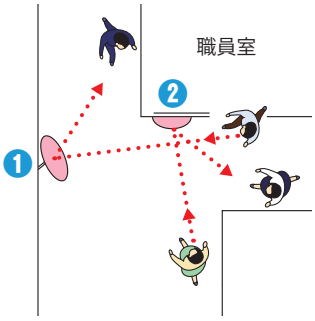
衝突の危険性が劇的に減った！

ミラーを設置してから約1か月後の7月29日、社長の小宮山と制作担当の椙谷も同行して設置後の状況を聞きに行った。牧野先生が校内のミラーが設置してある個所を回りながら詳しく説明してくれた。途中からは戸石副校長も一緒に案内してくれた。

実は、牧野先生が職員の方々に実施したアンケート結果を事前にもらっていたので、役に立っているらしいことは想像できたのだが、職員室近くの廊下で戸石副校長から直接「ここでの衝突の危険性が劇的に減った！」と聞いたときは本当に嬉しかった。牧野先生も「衝突はもちろんヒヤリとするような場面もほとんどなくなった」と言ってくれた。

ミラーをつけてからは、廊下を走る子も減ったそうだ。牧野先生は、指導する先生方に対して「ミラーをきちんと使うまでいかなくても、ミラーがあるな、映っているな、とわかってもらうだけで構わない」と言っている。幼稚部・小学部の子どもたちは、「ミラーを見て安全確認」までできない場

設置例 1.　職員室付近の廊下



職員室から出てきた先生と、廊下を歩いている高校生との衝突の危険が高かった場所。❶のミラー（スーパーオーバル）をつけてから危険性が劇的に減った。❷は今回寄贈したものではなく、もともとあったミラーを、場所を変えて設置しなおした。

合も、ミラーがあると気づくだけで「あっ、走らないようにしなきゃ」と思うようだ。そうすると結果的にヒヤリ・ハットの減少につながる。

職員の中には、「こんなにたくさんミラーをつけないと安全を保てない学校だと思われないか」と心配する意見もあったそうだが、牧野先生は言う。「子どもたちの多くは、ミラーが付いたことで曲がるときに気をつけるようになった。ミラーが交通教育のきっかけになっている。交通ルールは、子どもたちにとって社会にいろいろあるルールの原点といえるもの。校内でルールを守った通行ができるようになれば、外の交通ルールを守ることにもつながる。法律など社会のルールを守ることも、その延長線上にある。ミラーがそうした教育のきっかけに、すごくなっている。」

" 見ようね " なんて書かなくても見るよ！

子どもたちのミラーに対する反応はさまざまだったようで、「見るのが習慣になった」という子もいれば「ミラーがあろうがなかろうが、角は危険だよ」という子もいるそうだ。ただ、牧野先生が言ったように、ミラーを見ない子に対しても、廊下を走ることへの抑止効果にはなっているようだ。

ミラー自体に興味を持つ子もたくさんいる。「おもしろ〜い。どうして平面なのに奥まで見えるの？」と質問してくる子や、高校生くらいになると「このミラー高いでしょ」「作るの大変だろうね」などと言ってくる子もいる。ミラーのデザインを褒めてくれた専攻科デザイン系の生徒もいるそうだ。

ミラーにつけた注意表示は、あまり好評ではなかったそうだ。「" 見ようね " なんて書かなくても見るよ！」ということらしい。「かっこ悪い」という手厳しい意見もあった。

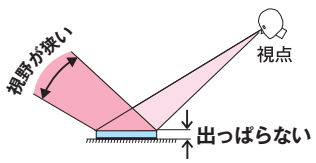
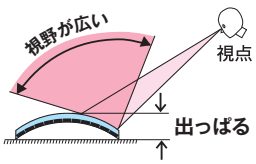
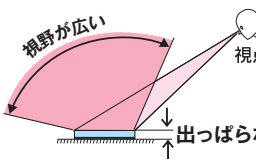
コミーにとっては表示などなくても活用してくれるならそのほうがいいが、できればミラーを見る子どもをもっと増やしたい。そこで 7 月 29 日の訪問の際、写真のような新たに作った表示を試しに貼らせてもらった。武蔵野美術大学の大浦一志教授にデザインしてもらったので、前よりずっとカッコよくなっていると思う。牧野先生も、文字よりこっちのほうが子どもたちにとってはいいだろうと言ってくれた。これでミラーに注目する子が増えてくれればいいのだが。

新たに取り付けた表示。しばらくしたら子どもたちの反応を聞かせてもらう予定だ。

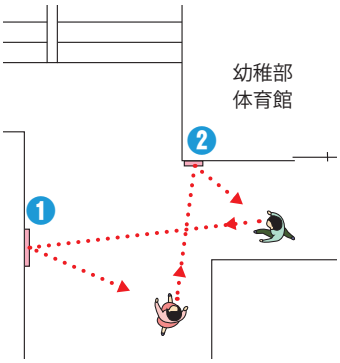
子どもたちには FF ミラー？　職員の方には凸面ミラー？

葛飾ろう学校に設置したミラーは、大きく分けて FF ミラーと凸面ミラーの 2 種類ある。このうち子どもたちが活用しているのは、FF ミラーのほうだ（設置例 2 〜 4）。

FF ミラーは、利用する人の目線に合わせて設置できる。葛飾ろう学校でも、幼稚部の子どもがよく使う廊下はかなり低い位置に、小学部の児童が利用する廊下はやや低めに、というように一番よく利用する子どもの目線に合わせて設置している。小さな子どもに、常に安全を意識してもらうのは難しいが、目線の高さに設置してあれば意識しなくても自然と目に入る。そのため FF ミラーは子どもたちも活用しやすいのだと思う。

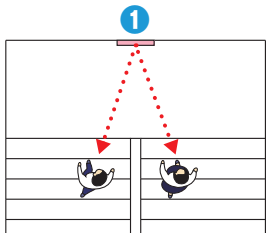
普通の鏡	凸面ミラー	世界初 !! FF ミラー
		
姿見などに使われているミラー	視野が広く、自動車のバックミラーや、交差点のカーブミラーなどに使われている。	コミーが開発した世界初のフラットなのに視野が広い鏡。ATM の後方確認用などにも使われている。

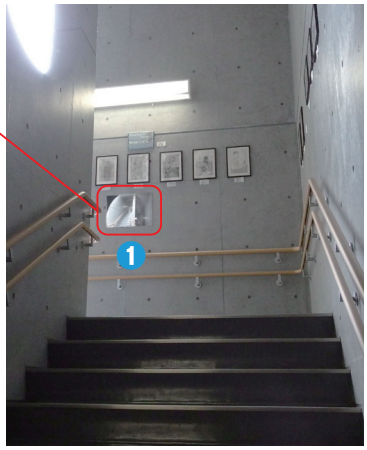
設置例 2.　幼稚部体育館付近の廊下



幼稚部体育館へ通じるＴ字路にFF ミラー通路を設置。幼稚部の子どもの目線に合わせているので、かなり低い位置に貼ってある。体育館への行き帰りにミラーを見て確認するよう、先生方が指導してくれている。

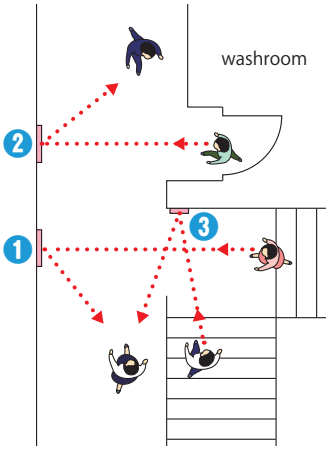
設置例 3.　階段の踊り場

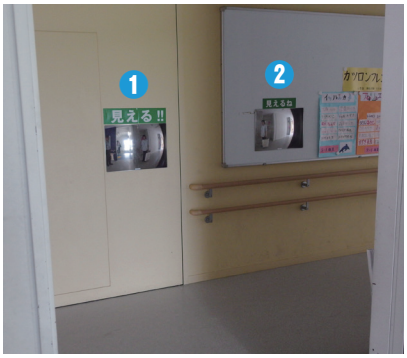




階段を隔てる壁には大きな穴が開いていて向こう側が見えるようになっているのだが、背が低い子どもは穴の下に隠れてしまう。穴だけでは衝突を回避しきれないので、ミラーを４か所の踊り場に設置した。踊り場には生徒の書いた絵などが飾ってあるのだが、ミラーはシンプルなデザインで掲示物を邪魔することもなく、よく見えると好評。追加の要望があり、７月29日に訪問した際に、新たに２か所設置した。

設置例 4.　トイレ・階段に通じる廊下





人の動線が交差し、衝突の危険が高い場所。以前、トイレから出てすぐ走り出した小学生と、廊下を歩いていた高校生がぶつかったことがあった。FF ミラー通路を設置してからは、走る子自体が減ったそう。

一方、凸面ミラーは、子どもたちはあまり活用していない。例えば天井につけたラミドーム。設置したときは「とてもきれい」と評判が良かったのだが、見上げなければならないためか、子どもたちはあまり見ないそうだ。目線よりも高い位置に設置してある凸面ミラーは、むしろ職員の方たちに役立ててもらっている。

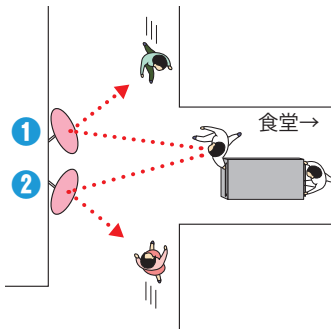
天井に設置したラミドーム

例えば食堂付近のＴ字路に設置したスーパーオーバル（設置例5）。像が大きく、角度調整もできるミラーで、配膳車を運ぶ職員などが子どもとぶつからないよう利用しているそうだ。こうしたミラーは、車を運転する人にとってのカーブミラーのような役割を果たしているのだと思う。車を運転する人は、曲がり角では安全確認が必須だ。同じように、配膳車を運ぶ人なども常に安全に気を配っているので、目に入りやすい位置にあることよりも、しっかり見えることのほうが大事なのだろう。食堂付近に設置したスーパーオーバルは高い位置にあるので、大きな配膳車を運ぶ場合も見やすい。また人通りが多い時間帯でも、ミラーが通行人で隠れてしまうことがない。どんな人がどう利用するかによって、どんなミラーが最適かも変わってくるのだ。

衝突防止はどんな学校にも共通する問題

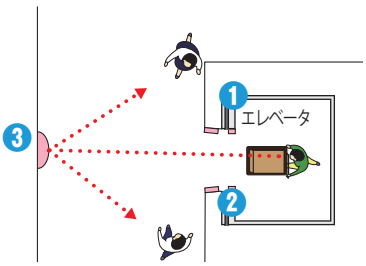
葛飾ろう学校には今年度、視覚障害を併せ持つ子が入学した。その子は弱視なのだが、衝突事故などが起これば全く見えなくなってしまう可能性もある。より安全な生活ができるようにと、その子が活動するエリアにもミラーが設置してある。実はこうした理由でミラーを設置するのは、ろう学校ばかりではない。以前も「衝突が致命傷になる病気の子どもが入学してきたのでミラーを設置したい」

設置例５.　食堂へ通じる廊下



昼食の時間になると食堂へ向かって子どもたちが走ってしまうので、100kg ほどある配膳車とぶつからないよう、職員が常に気を配っている。❶と❷のスーパーオーバルを設置し、曲がり角の向こうから来る子どもの姿を確認できるようになったので、職員の負担が軽減された。

設置例６.　エレベータ



❶と❷はエレベータの乗り残し・挟み込み防止用の FF ミラー。❸は今回寄贈したものではなく、もともとあったミラーを場所を変えて設置。❸は、始めは必要ないと思ったそうだが、荷物を運ぶときなどに活用しているそうだ。

私たちは売上げの拡大よりも“出会いの喜び”“創造の喜び”“信頼の喜び”を味わえる仕事を大切にしていきます。

という中学校があった。結果として、その生徒だけでなく、多くの生徒の衝突防止に役立ったそうだ。

病気を持つ子どもだけでなく、元気な子どもだって衝突すれば怪我をする可能性がある。衝突が危険だという点については、どんな子も一緒だ。葛飾ろう学校を訪問して思ったのは、この学校が特別なわけではなく、どんな学校でも同じように衝突防止対策を必要としているのではないかということだ。

ただ、これだけミラーを活用してくれるのは、ろう学校だからかもしれないとも感じた。学校にミラーを設置しても、「"見ようね"なんて書かなくても見るよ！」と言ってくれるところはなかなかない。ろう学校の子どもたちは視覚からの情報に鋭敏なのかもしれないし、先生方も安全指導に熱心なのだと思う。ほかの学校では、ミラーに気づいてもらうための表示などに、もっと工夫が必要だと思った。

世界中の学校でミラーを役立ててほしい

7月29日の訪問の際、階段の踊り場にミラーを2台追加し、寄贈したミラーは全部で22台になった。学校の廊下には、死角となる場所が思っていた以上に多かった。

「学校事故事例検索データベース」を見ると、さまざまな学校の廊下で衝突事故が起こっていて、負傷している児童も少なくないことがわかる。救急車を呼ぶような大怪我につながることもあると聞く。先生方も子どもたちが怪我をしないよう常に気を配らなければならず、大変なことだろう。

コミーは葛飾ろう学校を訪問し、ミラーが学校で役立つことに自信を持った。コミーのミラーを日本中の学校で、子どもの衝突防止と先生の負担軽減のために活用してもらえたらと思う。また、コミーでは2014年5月にアメリカのシアトル近郊に「Komy America」（子会社）をつくったので、将来は世界中の学校にミラーを広めていきたい。できれば幼稚部や小学部など、小さなころからミラーを活用してほしい。子どものころから「曲がり角では安全確認」という習慣をつけてもらえたら、大人になっても安全通行ができるのではないかと思う。

学校での衝突事故事例

「学校事故事例検索データベース」より抜粋

事例1
始業前の特定時間中、教室に戻ろうと1階から階段を上がり、2階の廊下に達した際、廊下から階段に向かっていた他児童と衝突し、その児童の額部と本児童の右眼部分がぶつかった。

事例2
本児童が教室へ入ろうとした際、廊下へ出ようとした他の児童と出会いがしらに衝突した。

事例3
本児童は、次の時間のクラブに行こうと教室から廊下に向かったところ、横から走ってきた他の児童と衝突し、転倒した。その際、顎を床にぶつけ負傷した。

事例4
給食前、教室を出て2階の廊下を歩いていたところ、特別教室から飛び出してきた他の児童と衝突した。

事例5
体育館の清掃に行くために歩行していた。友人が本生徒の左側より清掃用具を取りに行くために走ってきて衝突し、転倒した。その時に、腹部を打撲した。

事例6
体育館へ行こうと廊下を歩いていたとき、体育館から走ってきた他の児童と衝突し眼を負傷した。

出典：学校事故事例検索データベース　http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Tabid/822/Default.aspx
（独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付において平成17年度～平成25年度に給付した総数5,067件の障害・死亡事例を検索できるようにしたもの）

――― コミーの「?」と「!」の物語宣言 ―――

コミーは「共に喜びを味わえる物語」を創るために仕事をしていきます。

おかげ様でコミーの「気くばりミラー」は“身近なコンビニ・ATMから航空機まで”
の広い分野でお役に立つことができました。これは

コミーの商品なら「買ってみよう、使ってみよう」
コミーなら「取引してみよう」
コミーなら「本音をいってやろう」「知恵を貸してやろう」

などの出会いから、継続していただいている方々のおかげです。
しかし、たくさんの失敗もありました。
コミーでは仕事が終わって忘れた頃、またしつこく

「なぜ、あの時失敗したか？」
「どんな出会いがあり、誰のおかげだった？」
「まだやりかけではないか？」
「また一つ勉強になったぞ!!」

など「？」「！」を話し合ってきました。
そしてできたのがコミー物語シリーズです。
一般に生物が育つには「DNA要因」と「環境要因」と「時間要因」がありますが、
企業も同じだと思います。
コミーのDNAは“出会いの喜び”“創る喜び”“信頼の喜び”だと思います。
この喜びをもっと深くみつめ、これからも「環境要因と時間要因」を
考えていこうと思います。
共に喜びを味わえる物語を創るために、知恵を出し合いませんか？
または一緒に仕事をしませんか？
そして社会に役立てる商品づくりや物語ができればと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

何をつくっている会社ですか？

昔、「松下電器は何をつくっている会社ですか？」と聞かれ、松下幸之助は答えたそうです。
「うちは人をつくっている会社です」と。

また、総理大臣の吉田茂は「総理、あなたはいつも何を食べていますか？」と聞かれ、
「人を喰っている」と答えたそうです。

最近、ある大学のインターンシップの発表懇談会で学長から「コミーさんは何をつくっている会社ですか？」と聞かれ、偉大な二人を真似て答えました。
「物語を創っている会社です」
「？？？」

コミーの物語シリーズ

新商品 新マーケット	・不思議３鏡態（きょうだい）物語　・「ラミ」開発物語 ・航空業界参入物語　・商品展開と新ロゴ物語
中小企業と モノづくり論	・「モノづくり屋自慢」（日刊工業新聞掲載） ・新社屋建築物語
社会問題	・「万引問題物語」　・車いす人生の物語 ・コミーの環境問題物語
生産システム	・「デルに学んだ物語」・「掃除と分類」物語
広告・広報 展示会	・ユーロショップ出展記　・はったり写真づくりの物語　・「日経新聞全面広告」物語